ひとりごと

「きょうりゅうにあいたい」

週末は、時間がとれる限り、3歳の息子と過ごすことに決めている。

一緒に朝食を食べながら、平日にはゆっくり話せない（でもたわいのない）話をする。「パパ、この前さ、あっちにショベルカーが来てたよ。おっきなの。」「昨日テレビで、大きな水槽をショベルカーで解体してたんだよ。」など、息子から大好きな重機の話をすることが大半だが、近頃は「あのショベルカーは、スケルトンバケットだった」「この前見たクレーン車は、アウトリガーがすっごく太かった」など、聞きなれない言葉も多用するようになっている。息子にせがまれて買った「乗り物図鑑」（しかも、似たような図鑑を数冊も持っている）からの情報なのか、最近はまっている建物を解体するテレビ番組からの情報なのか、重機について次第に詳しくなっている息子を見ていると、好奇心があふれ出ることの素晴らしさを感じることがある。

先日も、一緒に見ていたテレビ番組で あざらし が出たとき、「あざらしって何食べるのかな」と息子。祖父母からもらった「動物図鑑」のページをめくっていたが あざらし に会えず、（でもあきらめずに、今度は）動物のさまざまな情報が載っている「動物カード」から あざらしのカード を探し出し、そして（いつの間にか読めるようになった）ひらがなを一文字ずつ読み上げながら、「さ・か・な、って！」。そしたら、別のカードにあるペンギンに興味が移ったようで、しばらくカードを見ていたと思ったら、突然走って地球儀をとってきて、私に「南極って、どこ？」と、質問する息子。

土曜の昼下がりは、「たんけん」と称して、愛車（手押し三輪車）にまたがって、近くの公園までうたを歌いながら行く。「あっ、松ぼっくり発見！ママに持って帰ろう。」「あっ、クロトン（先日、この木何て名前？と聞かれて教えた植物）発見！」私と息子の「たんけん」は、それこそ発見の連続で、私にとっては見慣れた日常の風景も、息子のフィルターをとおして彩りが添えられていく。

「きょうりゅうにあいたい」。七夕の短冊に、母親に頼んで書いてもらった息子を連れて、8月『恐竜科学博』を見に行った。初めて見る、恐竜の化石の大きさに、息子は大興奮。「大きい！」「すごい！」そこから質問が止まらない。「恐竜は、今いないんだよね？なんで？」「緑の葉っぱ食べ過ぎて、おぇしてしまったのかな？」…（さっそく、その日、恐竜の図鑑を買いに行きました）

先日は、母親に「ママ、結婚ってなぁに」と聞いたらしい（とうとうきた！）。息子の姿を見ていると、「学ぶ」ということの本質を、教えられている気がする。これからも息子の成長を楽しみに、私自身も息子から学んでいきたい。

（N.K）

「教育委員会月報　令和5年12月号　No.890」

・**発行・著作** 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
・〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
・TEL：03-5253-4111（代表）
・URL：https://www.mext.go.jp

文部科学省